



天文資料

2019年 4月号

2019年度 第1号 (4月号)

平成31年 3月22日

発行：佐世保市少年科学館

佐世保市少年科学館



＜「春の大曲線」と「春の大三角」が星座を導きます＞

かすんだ天気になりやすい春の空ですが、雨が降った後や気流の状態がよいときは、きれいな星空が現れます。機会をとらえてぜひ星空を見上げてください。

まず、北極星の方向に体を向けて空を見上げ、北斗七星を見つけます。北斗七星の柄の部分は曲がっています。このカーブを延長していくと、東の空でオレンジ色の明るい星に出会います。この星がうしかい座のアークトウルスです。アークトウルスから北極星に向かって「太めのネクタイ」が横になったように星が並んでいるところがうしかい座です。

さらに、アークトウルスからカーブを進んで行くと、南東の空で白色の明るい星に出会います。この星がおとめ座のスピカです。おとめ座は大きな星座ですが、形がわかりにくいので、右の星図を参考にさがしてみてください。スピカの上に三等星ポリマ(★)があるので、これも手がかりに。



国立天文台HPより

この、北斗七星からアークトウルス、スピカに至るカーブを「春の大曲線」と呼んでいます。

次は、アークトウルスとスピカから天頂方向に目を向けてみましょう。すると、ちょうど正三角形になるような場所に二等星が輝いています。この星はデネボラと言ってしし座のしっぽに当たる星です。この3つの星で形づくる三角形を「春の大三角」と呼んでいます。

「春の大曲線」「春の大三角」は、星座を探す手がかりです。実際の空で、これらを利用して星座を探してみましょう。

＜はやぶさ2がリュウグウにタッチダウン成功！＞

2019年2月22日・午前7時29分【日本時間】はやぶさ2がついに小惑星リュウグウへのタッチダウンに成功しました。

JAXAの津田雄一プロジェクトマネージャーは、記者会見で「本日、人類の手が新しい小さな星に届きました」と述べました。また、「はやぶさ2の状態は正常」「チーム全体のしつこさが実った」「着陸は高い精度が求められた」「弾丸は発射されていると思う」「初号機を超える技術実現」「チームワークと深い設計思想が日本にはある」など

と発言されています。はやぶさ2は、どのようなお土産を持って地球に帰ってくるのでしょうか。楽しみですね。

(NHK記事から抜粋して記載しました。)



タッチダウン直後の
はやぶさ2の影